

市川市子ども・子育て会議

意見書

今回、未就学児を持つ母親 9 名（2012 年ノーバディズパーフェクトプログラム受講生）からの声を以下にまとめました。

一時預かり

- ・登録のための面接まで 1 カ月半待たされて、すぐに利用できなかった。
- ・各保育園ごとに登録・面接を受けなければならない、2 つまでしか保育園を登録できない。
- ・実際に利用したい日が空いていない。空き状況を電話で聞かないとわからない。
- ・一時預かりを実施している認可保育園に限られているため、近所にない。
- ・無認可の一時預かりは料金が高い（認可保育園の 3 倍以上）
- ・リフレッシュ目的の一時預かりは本当に利用してもいいのか迷う。
- ・リフレッシュの一時預かりは月に 2 回までしか取れないが、本当は週に 1 回が理想。
- ・アンティマミーの利用者はいつも常連ばかりで朝早くから並んで予約を入れている。常にキャンセル待ちの状態。
- ・アンティマミーの子どもをみるスタッフが足りない。
- 一時預かりの窓口を一本化してほしい。そうすれば、複数の保育園にも登録が出来て、もし近所の保育園が空いてなくても少し遠いところで利用できるかもしれない。
- 空き状況をインターネットでいつでも検索出来たら便利。
- どの保育園もすべて一時預かりを実施してほしい。
- 無認可の保育園でも預かり料金が認可保育園と同じくらいになるように市から補助がほしい。
- もっとリフレッシュの利用をオープンにして、行政が推進してほしい。（例）月に 1 回利用券が無料で送られてくるとか。
- 一時預かりの利用に関して、公平にするなら抽選にすべきではないか。
- もっと気軽に預けられる場を増やしてほしい。
- ファミサポ、アンティマミー、町会、自治会など小規模単位で子育て支援に力を入れてほしい。

情報格差

- ・自分から情報を得ようとする人は積極的に行動して情報を得ているが、そうではない人たちは知らないまま過ごしている場合が多い。
- ・自分から情報を得る人でも、必死でネットを検索したり、ママ友から情報を聞かないとわからないことが多い。里帰りのときに実家の地域では、週に 1 回イベントの情報誌が無料で届くのでとても参考にしていた。

- ▶ 妊娠時に母子手帳をもらう時に市の子育て情報やその情報をどうやったら得ることが出来るのか、伝えていくと良いと思う。また、もっと情報がわかりやすく手に入る工夫をした方が良い。
- ▶ 週に1回くらい子育て通信みたいな情報誌が各家庭に届いたら見るかも。ペーパーの方が意外と見やすい。

母親学級

- ・臨月まで仕事をしていたので、母親学級は土曜に夫と参加したが、たった1回で終わりだったので母親同士の交流はほとんど無かった。友達作りは出来ない。
- ・2人目を妊娠しているが、1人目の子の事や今後の事で1人目の時よりも不安や悩みがたくさんある。
- ▶ 働いているママ達向けに3回あったら良いと思う。同じ状況なので仲良くなりやすく、複数回あれば出産後も結びつきが強いと思う。
- ▶ 二人目のママ向けに託児付で母親学級を実施してほしい。

母親同士の結びつき

- ・母親学級から始まり、出産後の各講座など、同じタイミングで母親になる者同士が集まる機会はあるのに母親同士の結びつきが弱い。町ですれ違ってもあいさつするだけ。
- ・4か月赤ちゃん講座は1回だけで、その後の各講座は任意参加のため、なかなか母親同士がゆっくり交流する時間や機会がない。
- ▶ 母親学級の頃から子どもが2,3歳くらいになるまで地区ごとにグループで担当の保健師が見てくると絆が深まると思う。(千葉市の例)
- ▶ 赤ちゃん講座などは1回ではなく、複数回あれば同じ月齢の母親同士が仲良くなれると思う。

保健師

- ・相談したいことがあっても、なかなか会うチャンスがなく、わざわざ電話で訪問してもらうのは気が重い。
- ▶ 保健師の訪問は産後すぐの1回だけしかないが、数か月おきに担当の保健師が訪問してくれて、相談に乗ってもらえると心強い。虐待も防げると思う。また、支援センターや児童館に保健師がもっと出向いて、いつでも専門家に相談する機会がほしい。

1歳以降の講座

- ・4か月赤ちゃん講座や5か月 Welcomebaby、離乳食講座など、1歳未満向けの講座はあっても1歳を過ぎると途端になくなる。
- ▶ イヤイヤ期、食育講座(保育園の給食)、ママのためのリラックスヨガなど、市川市主催の講座をもっと増やしてほしい。ノーバディズパーフェクトプログラム(NP)はもっと多くの人が受講すると良いと思う。(他の市では市が全面的に実施している)
- ▶ 文化会館など大きな場所で子育ての専門家を呼んで講演会やセッションなどがあつたらぜひ参加したい。(託児付もしくは土曜実施)

支援センター

- ・歩いて行ける距離にあると良い。家からだ徒歩 25 分くらいの所にやっとな感じ。夏や冬、雨の日は行きづらい。(大和田地区)
- ・妙典地区は乳幼児が多く、日によっては足の踏み場も無いほどの状態。
- 各団体に市が委託して、支援センターの数をもっと増やしてほしい。更に各支援センターごとに特色があって魅力的になると良い。

児童館

- ・子どもと出かける先が児童館しかない。しかし、児童館は古臭くて魅力をあまり感じない。薄暗くて、オモチャも壊れていたり、数が足りなかったりする。職員さんも部屋に引きこもっていたりして子供を見てくれないところがある。
- ・お昼は食べれるところと食べられないところとある。一般のお店は子どもと入りづらい雰囲気があるので、いつも困っている。
- お昼ご飯も食べられて、子供が目を輝かせて楽しめる魅力的な場所が児童館であってほしい。例えば、都内にあるママカフェやららぽーとのキドキド、水道橋のアソボーノ等は人気がある。
- 児童館の職員さんがもっと子どもと遊んだり、保健師が訪問してくれて相談できると嬉しい。

公園

- ・砂場にネットがあるところとないところがある。ないところは汚い。タバコが落ちていたりする。
- ・公園と道路が隣り合わせになっていて、子供が飛び出さないかいつも不安。
- ・妙典地区は広々とした公園が少なく、小学生のいる時間帯は幼児が遊ぶスペースがない。
- 砂場にはネットをしてほしい。もしくは掃除を定期的にしてほしい。
- 各公園に策やゲートがあれば安心して子供を遊ばせられる。
- 小さな公園で最低限の遊具でいいので、公園の数を増やしてほしい。(妙典地区)

自治会

- ・近所の自治会を使っているのはお年寄りばかり。「うちの子は夜泣きがひどくて近所に迷惑かけているかも」と気にしているママもいる。
- 近所のおじちゃんやおばちゃん達と交流できる場を作ったらどうか。子どもたちも自治会館を使わせてほしい。

プレーパーク

- ・市川子どもの外遊びの会が実施しているプレーパークは市川・本八幡方面が多く、東西線沿線からは遠くて参加しにくい。東西線沿線は自然が少なく、同じ市川市でも子育て環境に差別を感じる。
- 自然に触れて遊べる場所をもっと増やしてほしい。

幼稚園のプレ

- ・親も参加しなければならないので、結構大変。
- 4年制保育や子どもだけ参加のプレがあれば行かせたい。1日たった2時間でもいいのであると有難い。

保育士不足と質

- ・保育士が足りていないから待機児童がいるという状況。
- ・地域交流で参加した際に、認可保育園でベテランの保育士の虐待に近い現場を見てしまった。
- 非常勤の保育士の待遇を改善し、応募数を増やす。また、全ての保育園で保育士が配置されていない状況を作らない。
- ベテランの保育士でも研修を行い、定期的に評価するなど、保育士の質を改善してほしい。

マイ保育園

- ・登録したが、あまりよくわからない。定期的にわが子を見守ってくれるイメージだったけど、当たり障りない感じ。そもそも近くに公立の保育園がないので登録していない。
- 登録することのメリットを明確にすべき。

子育てコンシェルジュ

- ・実際、何をやっているのかよくわからない。あまり利用されていない。横浜市のは違う。
- 地区ごとの保健師がもっと各個人に働きかけていればコンシェルジュの必要がないと思う。

ハローワークの職業訓練

- ・職業訓練の場所が北松戸にあり、遠くて行きづらい。出席率も厳しいので子供を持つ母親としては参加しにくい。
- もっと近い場所で出席率もゆるく長く出来ると良い。

転入者へのサポート

- ・子どもが1歳以降だと赤ちゃん講座などが終わっていて、なかなか交流する機会が少ない。情報が入ってこないため、孤立してしまいがち。
- 転入者は必ず市の保育課から情報をもらい、積極的にサポートをすると良い。また、1歳以降の講座も開催すると良い。

(最後に)

ママ達の声は上記以外にも限りなく出てくると思いますが、実は求めていることがあるということを知らなかつたり、求めているものが現状とはずれていたりします。この差を埋めるためには、情報をもっとわかりやすくして伝えていくことと、各現場においてその質を上げていくことではないかと思います。

以上